

環境学習施設研究部会

秋の視察研修会 2023

報告書

秋の視察研修会 2023 は、「つながりの中で学ぶ」をテーマに、「ゆめくりん（知多南部広域環境センター）」（愛知県武豊町）、「豊橋市バイオマス利活用センター」（豊橋市）、そして「愛・地球博記念公園（モリコロパーク）」（長久手市）を視察し、未来へ向けた地域とのつながり、人と自然のつながりを学んだ。初日は、施設見学者とのコミュニケーションを重視した展示運営やプログラムの工夫をゆめくりんで学び、2 日目は本研究部会としては初の下水処理施設の視察で、併せてバイオマス資源活用について学んだ。そして午後はタイトなスケジュールであったが、2005 年日本国際博覧会・長久手会場の跡地に開設された公園で憩いのひとときを過ごすことができた。

本年も、締切間際まで催行が心配されたが、なんとか 32 名の参加者を確保できた。追い込みの声がけに応じて参加されたみなさまのおかげです、感謝！

- 初日 : 11月7日(火曜日)
- 12:40 名古屋駅前集合
- 13:30 ゆめくりん
(知多南部広域環境センター)
- 17:30 研修会(名古屋クラウンホテル)
- 18:30 意見交換会・交流会

最初の視察地「ゆめくりん」は、わかりやすく学べる工場見学の案内で、司会業の経験もあるガイドが見学者とのコミュニケーションを楽しみながら見学設備やコースの紹介をする様子がとてもほほえましく、地域との温かいつながりを実感することができた。(図1~4)



図2：各コーナーにおけるガイダンス&クイズ画像



図3：廃材を活用してデザインされた遊具



図1：ゆめくりん全景、視察前オリエンテーション



図4：ユニークなデザインのスロープ（ごみピット）

次は、宿泊先でもある「名古屋クラウンホテル」(名古屋市)で研修会を開催した。

研修会は、最初に本研究部会の花嶋温子代表が挨拶し、次に「つながりの中で学ぶ」をテーマに、昨年につづき本研究部会の山口茂子幹事(川崎重工業株)から、つながりを大切にした施設運営についてのノウハウをうかがった。今回はプラントメーカー勤務の参加者が多く、山口幹事の持つスキルの高さにみな驚き、ジョークであるが高額トレードのお声かけも出たほど場が盛り上がった。

そして、初日最後は意見交換会・交流会である。恒例の自己紹介ショーが行われ、参加者同士の親交を深めることができた。



図5：研修会2景の様子

- 2日目：11月8日(水曜日)
- 08:30 ホテルを出発
 - 10:40 豊橋市バイオマス利活用センター
 - 13:30 愛・地球博記念公園(モリコロパーク)
 - 15:50 解散(名古屋駅)

2日目午前は、豊橋市バイオマス利活用センターの視察である。途中渋滞に巻き込まれ、40分ほど遅刻したが、施設職員の方の適切な案内で、隣接の下水処理場までのフルコースの視察ができた。最初に下水処理施設管理棟においてオリエンテーションを受けた後、下水処理施設の汚水処理の現場で汚水が浄化されていく様子を眼下にみる事ができた。その後のバイオマス利活用センターでは、安全上車両の投入状況等は直接みる事ができないため、内部の様子は映像等で説明を受け、メタン発酵

槽や発電機等の主要な設備の外観を中心に見学した。



図6：下水処理施設、バイオマス利活用センター

2日目の午後は、愛・地球博記念公園(モリコロパーク)である。多くの参加者がジブリパークへ足を運んだが、展示内容が濃く、短時間での鑑賞は不可能であった。



図7：公園入り口(奥がジブリパーク)



図8：参加者記念撮影

最後に、今回お世話になった知多南部広域環境組合、豊橋市をはじめ各施設のみなさま、そしてご参加のみなさまに多大なご協力をいただいた。記して感謝したい。

なお、本視察研修会の詳細なレポートは、月刊廃棄物2024年1月号に掲載される予定である。

(文責：鈴木榮一)